

お帰りなさい

4月20日、宇宙から無事地球に帰還した宇宙飛行士の山崎直子さん

お茶高生の先輩である彼女にさまざまな面から迫る

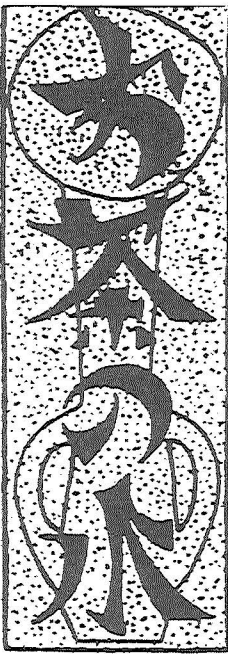
春休みも残りあとわずかとなった四月五日の午後五時半、合併室に多くの人が集った。顔ぶれは在校生から卒業生、保護者の方や退官された先生までさまざまである。しかし、目的はただひとつ。本校卒業生の山崎直子宇宙飛行士の無事の出発を応援することである。

約二時間後の打ち上げの前に、合併室の打ち上げ前、合併室がいったいになり、集合時間を過ぎたところで、今回の会を企画運営した物理科の村井利行先生が挨拶、続いて浜谷望校長が挨拶された。山崎さんの在学当時は化学を教えていたとしゃべった石井明子副校長は「角野さん（山崎さんの旧姓）に化学を教えるのは非常に楽しかった。彼女が言った『お茶高で学んだことは頑張ることは泥臭いことではなくて楽しいことだ』という言葉が胸に残っている」と話された。

続いて今日のために集まってくださった山崎さんを教えた先生方が紹介され、山崎さんの同級生の方々が挨拶された。遠くは京都、徳島から駆けつけてこられた同級生の方もいらした。



山崎(角野)直子さん(1989年3月卒業)
(提供: NASA)



発行所
お茶の水女子大学附属
高等学校新聞部
文京区大塚2-1-1
(5978)5856

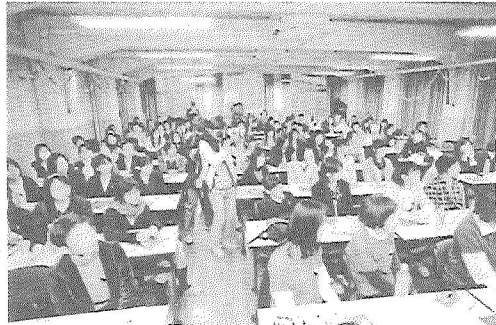
目次
1面 お帰りなさい先輩!!
／山崎さんの任務
2面 先生方 NASAへ／山崎さんお茶高生時代／村井先生インタビュー／大自然科学部／えびろおぐ

先輩!!

同級生で
今はJAXA
A(宇宙航空研究開発機構)の職員である杉田尚子さんは、「山崎さんを応援すると共に自分の将来も彼女のようになりたい」と話された。

その後、村井先生と共にこの会の開催のため活動してきた大自然科学部の部員(応援団)が紹介された。六時ごろからはスクリーンで山崎さんの歩みを紹介。「山崎さんはどこにいますか?」山崎さんのお茶高に入学した時のクラス写真が映し出され、山崎さんを見つめると、会場は「今と変わらぬね」などの声が聞こえ、盛り上がりとなった。

その後杉田さんから山崎さんの今回のミッションについて説明を聞いた。「今回の出張先はISS



合併室での応援会



挨拶をする杉田さん

お茶高からJAXAに入社した四人の卒業生、谷端希さんもお話をされた。谷さんは高校時代に宇宙法(宇宙の法律)を知り、宇宙法を作りたいという目標を持っていた。先生が谷さんを「行動派」と呼ぶように、杉田さんを訪ねお話を伺った。



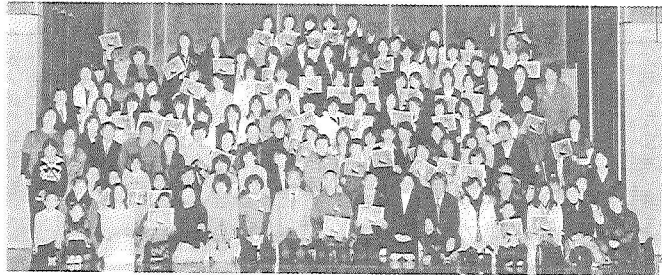
応援会取材する報道陣

(国際宇宙ステーション)ですが「……」という杉田さんの言葉は、山崎さん「たえ宇宙でも『出張』という言葉を当てはめるのか……」とスケールの違いからくる若干の違和感に会場をざわめかせた。

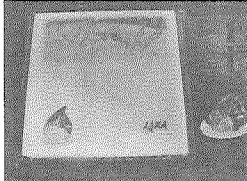
山崎さんはロボットアームの操作経験があり、物資の輸送に関する経験の蓄積をかわれてスペースシャトル搭乗となったそう。

また、山崎さんの宇宙での一日のスケジュールとその仕事内容の説明を受けたが、十二日間に及ぶ任務のスケジュールはまさに分刻みであった。

打ち上げまであと一時間に迫ったところ、山崎さんの同級生の方々のインタビューが始まった。皆さん高校時代の山崎さんとの思い出を懐かしそうに話され、まるで同窓会のような雰囲気。一番最近の山崎さんというところでスクリーンに流れた映像には、同級生の方からプレゼントされた応援ビデオレターにお礼をする山崎さんが映っていた。とてもうれしそうに友だちの名前を呼んでいる山崎さんの姿に、友人同士の仲のよさが伝わってきた。



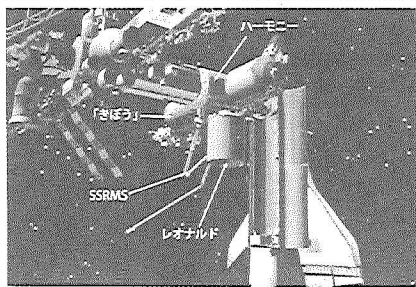
体育館にて記念撮影



でれま
会さ念
配布記
の配の
上げら
上か山
打ちJAXA
JAXAと
ま

話を伺った方も多かった。そして二〇〇八年JAXAに入社された。また十二月に講演を伺った山崎さんの主治医松本晴子さんも、本校卒業生(八四年)である。

山崎さんのお茶高生時代が気になる在校生からは、「山崎さんは勉強をどのような感じでしていたのか」という質問があがった。同級生の方々は、「勉強はすごくできました。芯が強くて平凡な努力を積み重ねていく人。まさに継続は力なりという言葉が当てはまる」「ガリガリという感じではないが頑張り屋さんだった。知らないところで着実に頑張っていたんだと思う」などのお言葉が。「テストで一晩漬けて焦っていたりはしなかった」というコメントには、会場の現役お茶高生から「あー……」という何とも言えない声が漏れ出した。他にも「肩肘張らずに、バランスの取れた人だなと感じていた。」ある同級生の方は「訓練中の山崎さんの家に



ISSとスペースシャトルの連結
提供: JAXA

山崎さんの任務

遊びに行った時、あらゆるものにロシア語のかかれたメモが貼ってあった。当時ロシア語を勉強中だった山崎さんは、あらゆるものにそのロシア語の名前を貼って覚えていたのだ。「彼女を見ていて思うことは平凡なことを積み重ねると非凡になる」ということだと思ふ。

この言葉には会場全員が深くうなずいてしまった。

そしてとうとう打ち上げ五分前、応援団である大自然科学部指導の下、全員で応援の練習「フレ、フレ、直子、頑張れ直子。」全員の掛け声もそろい応援の準備は万端の中、カウントダウン開始。「フレ、フレ、直子。」皆スクリーンに釘づけになりながら応援し、無事飛び立つと会場には歓声が上がった。全員が「本当に宇宙に飛び立ったんだ!」と隣の人と興奮を分かち合っていた。

で、今後の宇宙飛行士の健康管理に役立てることを目的としたものだ。

今回のミッションで問題もいくつかあった。主に、Kuバンドアンテナの故障、窓素タンク(NTA)のバブル機能停止、共通結合機構(CBM)制御装置の機能停止である。Kuバンドアンテナの故障ではミッションが一日延長されてしまった。これらのトラブル対応は順調に行われ、安全に帰還できた。

ちなみに、ISSでの生活は、八時間睡眠で自由時間もあり、食事もレトルトやフリーズドライ技術が発達したため地上とあまり変わらず、掃除機のような仕組みで吸い取ってくれるトイレもあり、お風呂やシャワーはないが、快適に過ごせるそう。

無重力で体を支える骨や筋肉が弱ってしまったため、一日一時間ほどのトレーニングをする。

一九八一年の初飛行から約三〇年、老朽化の目立つスペースシャトルは今年中には引退する予定で、シャトルの後継となる宇宙への乗り物の開発は、民間に託されるという。よって日本人がスペースシャトルで飛行するのは、今回が最後となるだろう。来年からは、ISSに人を運ぶのはロシアのソユーズ宇宙飛行船だけになる。そのため、山崎さんは難しいといわれるロシア語を習得しているそう。

まだまだ邁進し続ける山崎さんを心から応援したい。

日本時間四月五日午後七時二十分、山崎さんが搭乗するディスカバリー号は米国フロリダ州のNASAケネディ宇宙センター(KSC)から打ち上げられた。野口宇宙飛行士ら六名の待つ国際宇宙ステーション(ISS)に、七日後四時四十分ドッキングし、一日間の飛行後、二十日午後十時八分にKSCに帰還した。

ディスカバリー号によるミッション(19A)では、実験ラック、クルーの個室、補給物資などを「レオナルド」(多目的補給モジュール)に搭載し、また、交換用のアンテナアンテナを軽量型曝露実験装置支援機材キャリアに収容して、ISSに運んだ。

山崎さんはミッションスペースリストとして、ロボットアームの操作と物資移送責任者を主に務めた。ロボットアームの操作では、スペースシャトルのロボットアーム(SSRM)とセンサー付き検査用延長ブーム(OBS)を使用し、ディスカバリー号先端部と左翼部の損傷点検を担当した。また、レオナルドの取り外しに備えて、OBSとレオナルドの干渉を防ぐためにOBSを貨物室から取り出しSSRMに受け渡す時のウィルソン宇宙飛行士とのSSMRS(ISS)のロボットアームの操作の担当、レオナルドの「ハーモニー」(地球側の第二結合機構)への取り付け、レオナルドの把持と収納を行った。

物資移送責任者としては、スペースシャトル、レオナルドとISS間の移送作業を行うとともに、移送物資の管理や作業の指揮を執った。レオナルドに搭載したラックの移動作業において、山崎さんは野口宇宙飛行士と協力して、全てのラックの移動作業を担当した。ラックの移動作業は予定よりも早く進み、作業は前倒しで進められた。

飛行八日目には、山崎さんと野口宇宙飛行士がJAXA広報原宇宙開発担当大臣、平野内閣官房長官、山崎さんの出身校の生徒らと交信をした。その他、軌道上共同記者会見、米国広報イベントに参加した。

飛行十一日目には野口宇宙飛行士ら数名のクルーと、「国際宇宙ステーションに滞在する宇宙飛行士の身体真菌叢評価(MYCO)」実験を行った。これは、人工的な環境で宇宙飛行士に付着している微生物、特にカビ(真菌)の変化を調べることが目的だ。

